

# 修学院小学校運営協議会だより

第 24 号 学校運営協議会理事長 青木 克之 修学院小学校長 村山 雅彦  
令和3年12月10日発行 家庭数配布



師走の候、平素より修学院小学校運営協議会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。さて、子どもたちは運動参観や学習発表会が終わり、日々の学習を頑張っているところです。今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応策として、3密を避けた取組を進めてまいりました。これまでの取組を振り返り、よりよい学校づくりを目指し、今後の教育活動を進めていきます。今後とも、ご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 学校安全環境委員会

10月29日(金)2校時に不審者侵入対応訓練を実施しました。不審者侵入対応訓練では、不審者が侵入した時の緊急通報の聞き方や避難の仕方等を知り、整然と素早く行動できるように取り組みました。

事後指導として、PTA環境委員の方が作成してくださった動画を視聴しました。また教職員研修として、下鴨警察署の方から「さすまた」などを使って不審者の取り押さえ方や簡単な護身術を教わりました。



## 学び支援委員会 開かれた学校委員会

例年、自転車教室やウッドデッキの補修作業、安全点検活動、きらら給食、お掃除おしえ隊など、子どもたちとともに活動したり、直接関わったりする取組が多くありました。

学校運営協議会で委員の方々と検討を重ねた結果、子どもたちの安全確保が第一と考え、今年度も多くの取組を見合わせることに致しました。

今後とも、子どもたちが安心して学校で学べる環境づくりに努めて参ります。子どもたちのために、できることを考えながら、安全に留意し活動を進めて参ります。どうぞ、よろしくお願い致します。

## ～ 修学院探訪 ～

### — 人口の話 —

自動車やテレビには「台」、刀剣には「振」のように、すべての「物」には固有の助数詞があります。「人」の助数詞は「口」です。「口」には、人にとって最も大切な「食べる・話す」機能があることから古代中国において「人口」なる熟語が生まれました。

さて、現在の世界人口は78.8億人。日本は1.6億人であり、日本は5年前より86.8万人減少しています。日本の弥生時代(2,000年前)が60万人、平安時代が550万人(平安京には10万人が居住)。そして、江戸時代前期が1,230万人、明治維新期が3,480万人と推計されています。一方、現在の京都府は257万人、京都市140万人、左京区16万人、修学院学区上一乗寺5,652人、修学院5,519人、山端3,596人、学区内に総計14,767人が居住しています。この国勢調査結果が、街づくりの基本になります。(小池 寛)

# 開かれた学校委員会 コミュニケーションシート（学校アンケート）より

1年に2回実施しております学校評価アンケートの、1回目の結果と分析をお知らせいたします。

家庭と学校が協力して子どもたちの学校生活をより良いものにしていくために、児童・保護者・教職員が、自己評価という形で学校生活・家庭生活を振り返って行っています。このアンケートの結果の分析を元に現状を把握し、今後の学校の取組に活かしていきたいと思います。また、学校運営協議会の「開かれた学校委員会」の委員の方々に、意見を頂いたものも合わせてお知らせさせていただきます。お忙しい中アンケートへのご協力ありがとうございます。修学院小学校がよりよい学校となるよう教育活動を進めて参ります。

アンケートの項目につきましては「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の各7項目の中から抽出して結果と考察をお知らせしたいと思います。

## 確かな学力定着に向けて～こどもをほめて育てる～

### <結果>

昨年度同様、全ての項目において、肯定的な評価を得ることができている。

『家庭学習への取組』の項目については、しっかり取り組むことができている児童も多いが、低学年に比べ、高学年の方が『よく出来ている』と答える児童の割合が低くなっている。また、『家庭学習への取組』の項目において、『できていない』と答えている児童も多くあり、手立てが必要である。

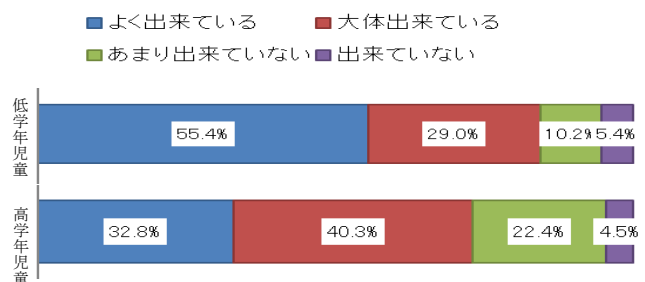
『自信がつくようになってきている』の項目については、『よく出来ている』と答えた児童が、低学年で5%，高学年で6%，昨年度より増えている。

### <分析>

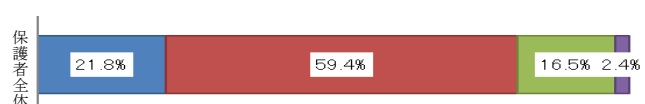
保護者の皆様のご協力もあり、家庭で学習にしっかり取り組める児童が多い。しかし、学年が上がるにつれ、習い事等を始める児童も多く、決まった時間に家庭学習に取り組めない状況もある。また、家庭学習における自主学習の取組について、その方法が分からない児童もいるのかも知れない。

コロナ禍で活動が制限される中ではあるが、学校での授業、行事等の中で、『自信がつくようになってきた』と答える児童が多かった。『With コロナ』の生活にも慣れ、生き生きと学校生活を送ることができるようになった結果だと考えられる。

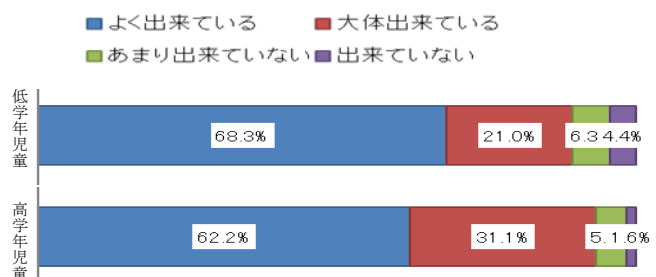
●家庭でも、自分で毎日、時間や内容を決めて学習を進めている。



●家庭では、自学自習の習慣がつくよう、言葉がけをしている



●励まされたり応援されたりすることで、少しずつ自信がつくようになってきている。



●学校は、子どもに自信がつくよう、子どもの良い所を見つけ、認めている。



## <学校より>

保護者の方の声かけもあり、『家庭学習への取組』について、児童も意識ができ、取組への意欲も高まったようです。今後は、家庭学習の取り組み方を、児童に分かりやすく提示し、児童の個性に合った学習への取り組みにつなげていきたいと思ひます。

『自信がつくようになってきた』という児童が多くいました。ほめることで、自尊心が高まり、それが自信や学習意欲につながり、学力も高まるといひます。児童のよさを認め、そして伸ばしていけるような教育活動を進めていきます。

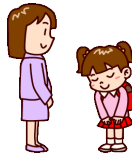
# 豊かな心を育むために～人を大切にするために 一人一人ができること～

## <結果>

昨年度同様、全ての項目において、肯定的な評価を得ることができている。

『挨拶』について、『自分から挨拶ができているか』という項目では、昨年度より肯定的な評価の割合が増えている。保護者の評価は、昨年度とほぼ同じポイントであったが、低学年で9%，高学年で4%，『よく出来ている』と答える児童の割合が増えた。

『社会や学校のルールを守る』では、低学年で94%，高学年で96%の児童が『出来ている』と大変うれしい回答が見られた。保護者も98%が『学校は、大切さを伝えている』としている。我々大人の姿勢、もちろんお手本となる教師の姿も今一度大切に教育活動を進めていきたい。

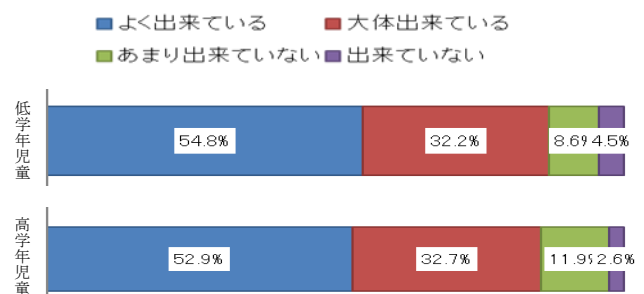


## <分析>

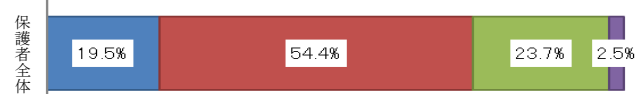
昨年度は、『自分から挨拶ができているか』という項目で、否定的な評価が増えてしましたが、今年度は改善された。学校では、マスクを着用し、飛沫の飛散につながらないように、大きな声を出さないよう指導している。目と目を合わせて会釈をするなど、新しいスタイルでの『挨拶』ができる児童が増えたのではないかな。

各ご家庭、学校、地域が一体となり、『社会や学校のルールを守る』ことの大切さを伝えてきた結果だと考える。

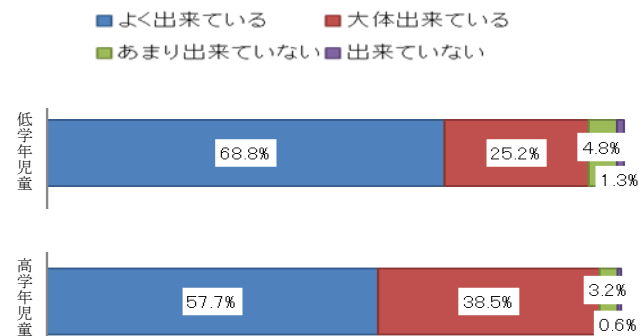
●誰にでも、進んで、挨拶をしている。



●子どもは自分から挨拶ができている。



●社会や学校のルールや約束を守ることができている。



●学校は、社会や学校（学級）のルールや約束を守ることができるよう、その大切さを伝えている。



## <学校より>

「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」挨拶は短い言葉ですが、相手の気持ちを一瞬で幸せにできる魔法の言葉でもあります。みんなで挨拶をする習慣をつくり、幸せの輪を広げていきたいと思ひます。

# 健やかな体で楽しい毎日を～よりよい学校生活は、健康な体づくりから～

## <結果>

全ての項目において、昨年度同様の肯定的な評価を得ることができている。『生活習慣』について、80%程度の児童が『出来ている』と答えている。『出来ていない』と答えている児童も20%程度いる。

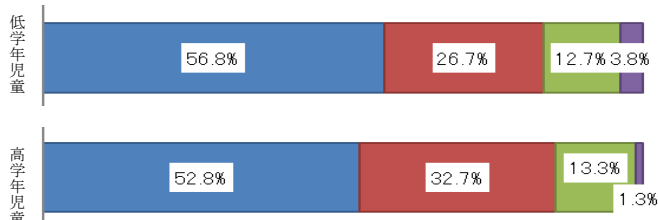


## <分析>

家庭に帰ってからも、宿題や習い事等、忙しい毎日を過ごす児童が増えてきたのではないかと考える。その他、ゲームやスマホなどの使用時間の増加なども要因の一つと考えられる。

●早寝・早起き・朝ご飯を大切にして、過ごしている。

■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない



●家庭は、基本的な生活習慣が身につくよう努めている。



## <学校より>

児童の成長には、『早寝・早起き・朝ご飯』をはじめ、十分な睡眠、バランスの取れた食事、適切な運動など規則正しい生活習慣が大切です。朝食を毎日食べている児童の方が、学力調査の平均正答率や体力合計点が高い傾向にあります。文部科学省でも、「早寝・早起き・朝ごはん」運動の励行など、幼児期からの基本的な生活習慣の確立を目指して「子どもの生活リズム向上プロジェクト」事業を平成18年にスタートさせております。今一度、各ご家庭でも生活習慣の見直しをお願いいたします。

## 「学校アンケートの結果と分析」への提言 －開かれた学校委員会での討議を中心に－

修学院小学校学校運営協議会「開かれた学校委員会」は、年に2回の学校アンケート項目の検討や学校が作成された「結果・分析」をもとに教員経験者や地域、学校が一体となって児童の学力・心・健康面などについて話し合っています。コロナ禍の諸制限のなか「児童に何をしてあげられるか！」を常に考えておられる先生方の熱い想いが伝わる討議でもありました。

【確かな学力定着に向けて】 自発的な家庭学習について「できている」とする回答は、低学年が84.4%であるのに対して高学年は73.1%と減少しています。中学校進学が意識の中に芽生える高学年の比率減少について、現状の把握と分析を行い、指導の工夫をお願いします。

【豊かな心を育むために】 児童にとって、例え学校内であっても見知らぬ来校者へ挨拶することは勇気のいることです。常に大人が模範を見せ続けることが大切です。児童の規範意識が96%と非常に高いことは、素晴らしいことだと思います。

【健やかな体で楽しい毎日を】 朝食を摂らないと脳のエネルギー源となるブドウ糖が不足し、集中力や記憶力が低下することが実証されています。引き続き、朝食の大切さを児童・保護者にお伝えいただき、改善に向けての工夫をお願いします。

学校運営協議会は、今後とも修学院小学校を支援してまいります。